

新しい暮らしのカたち

嫁ターン

幸せって何だろう？

都会でキャリアを積んで、収入を増やして…

幸せの価値観は人それぞれ

「家族とともに過ごす時間を大切にしたい」

そんな思いを実現する新たなライフスタイル

それが「嫁ターン」



最

近、話題の移住スタイル「嫁ターン」を知っていますか。

嫁ターンとは、首都圏から妻の地元へ移住することで、妻にとってはUターン、夫にとっては新天地への移住になります。

嫁ターンには、妻の実家の家業を継ぐためや、実家の近くで生活する方が子育てしやすいなどの理由があります。

生活のしやすさなどワークライフバランスが重視され、特に20代後半〜40代の出産や転職を意識する世代を中心に注目されている移住スタイルです。

地方の企業と比べて都会の企業の方がより高い収入が期待できます。しかし、結婚や出産などライフスタイルが変わると、生活は一変します。

保育園に入りにくかったり、生活費や教育費の負担が大きかったりと都会で子育てする夫婦には、高いハードルがあります。

「収入よりも時間を大切に」

「子どもがのびのびと育つ環境を」

都会で子育てに悩む夫婦に「嫁ターン」という選択肢をお勧めしてみたいかですか。

静岡県移住相談センター発！

移住のススメ

静岡県への移住に関心のある方のために、県では「静岡県移住相談センター」を東京都に設けています。さまざまな相談に応じている相談員の宮嶋さんに話を伺いました。

Q どんな相談ができるの？

移住に興味を持ち始めた方には、自分の生活に今どんな問題があるのかを考え、将来どうなっていきたいのかといった新たなライフスタイルを見つけるお手伝いをします。

移住の目的がはっきりした方には、移住後スムーズに地域になじめるように、事前に行政や不動産・就職関連・NPO法人など移住推進団体を紹介して、移住先との関係づくりにつなげています。

インターネットではなかなか見つけられない情報の提供を心掛けていますね。

嫁ターンを考えているあなたに

移住を支援する耳寄りな情報！

移住・就業支援金

東京圏から磐田市に移住し、県が認定した中小企業に就職した方などに



100万円を支給します

(単身の場合は60万円)

対象者や申請方法など詳しくは、秘書政策課
(☎ 0538-37-4805 Eメール: kikaku@city.iwata.lg.jp) へ

ページ番号 1007069

東京圏からの採用を検討する法人へ

移住・就業支援金の対象法人に登録して、移住者の支援にご協力ください。詳しくは経済観光課 (☎ 0538-37-4819 Eメール: shoko@city.iwata.lg.jp) へ

ページ番号 1006859



◀ 磐田市への移住の参考に磐田市魅力発信サイト「いいわたし@磐田市」をご覧ください



「ここがいいよね」「嫁ターン」

1. 子育てが楽に

近くにいるのが自分の両親なので、妻が気兼ねなく助けを求めることができる

2. 妻のストレスが軽減

見知らぬ土地で家事・育児に追われる生活から解放され、生き生きと生活できる

3. 夫もうれしい

妻の喜びは夫の喜び。妻が生き生きとした生活ができれば、夫にもゆとりが生まれる

Q どんな人が相談に来るの？
20代〜40代の子育て世代が多い印象ですね。

子育て環境を変えたいと「嫁ターン」の相談も増えていきます。静岡の女性は地元環境が好きで、静岡で子育てしたいと考える方が多いのかもしれないですね。

一人一人に最適な
ライフスタイルを一緒に考えます

静岡県移住相談センター

東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 8階(NPO ふるさと回帰支援センター内)
受付時間：午前10時～午後6時

☎ 03-6206-3858

Eメール: shizuoka@furusatokaiki.net



相談員の宮嶋さん(左)と橋本さん

私もしました“嫁ターン”

ケース①

故郷から1,350km “南の海”から“遠江”へ

「過ごしやすい気候に感動！

ここに来て良かった」

市内で製造業企業にお勤めの知花大さんは、磐田から遠く離れた沖縄県出身の嫁ターン経験者です。知花さんは、沖縄の専門学校を卒業後、名古屋市内の企業に就職しました。そこで出会った沙衣子さんと結婚すると、夫婦で将来のことを考えるようになりました。この先、頼れる人もいないこの場所での出産や子育てをするのは難しいのではないかと考え、妻の地元磐田市への移住を決めました。

どうして磐田への移住を決断できたのでしょうか。知花さんは長男で、将来は沖縄へ戻らなくてはならないだろうと漠然と考えていたそうです。しかし、いざ移住となった時、転職先の探しやすさや引っ越しのしやすさなど距離の近い磐田の方が好条件でした。そんなとき、沖縄に住む両親が磐田への移住を理解し、新たな門出を応援してくれたことが嫁ターンの後押しになったそうです。磐田へ移住し、就職活動の末に再就職先が決まると、その後は二人のお子さんにも恵まれ仕事と子育てに充実した日々を過ごしています。

「名古屋にいたころは冬の寒さや雪の多さが正直辛かったです。でも磐田はとても過ごしやすくて、ここに来て本当に良かったと思っています」と話してくれました。



ちばな だい
知花 大さん

35歳 沖縄県那覇市生まれ
家族構成：妻（32歳）、長女（2歳）、次女（6カ月）
経歴：23歳 名古屋でPC関連企業に入社
30歳 結婚
32歳 前職を退職し、磐田市へ転入市内製造業企業に入社
33歳 第一子誕生

「磐田の良さを再発見しました」

子どもが生まれたのは磐田へ戻ってきてからでしたが、地元での子育ては両親や姉が支援してくれるので助かっています。甥や姪も近くにいるので、子どもたちの良い遊び相手になってくれていて、名古屋にいたらできなかったかなと思います。

以前からどうしても地元に戻ってきたいと考えていたわけではありませんでした。いざ帰ってきて子育てしてみると、子どもたちの遊んだ近所の公園や図書館が楽しくて「こんな良い所だったんだ」と磐田の良さを再発見できた気がします。



妻：沙衣子さん

私もしました“嫁ターン”

● ケース②

“転勤族”から笑顔あふれる“家族”へ

「妻が笑顔に！

選択は間違っていないでした」

磐田市役所に勤めている松尾聡幸さんは、転職して嫁ターンした元転勤族です。

初の転勤で東北地方へ移った松尾さんは、交際していた菜水^{なつみ}さんと結婚しました。その年に妻が妊娠していることがわかると、今の転勤の多い職業のままだと家族を振り回してしまうのではないかと考えるようになったといいます。

そして、収入の多い職で働き続けることより家族と過ごす時間を大切にしたいと思い、転職を決意しました。新たな居住先に選択したのは、妻の地元である磐田市でした。



松尾 聡幸さん

30歳 大阪府枚方市生まれ

家族構成：妻（28歳）、長女（4歳）、長男（2歳）

経歴：23歳 東京で建設業企業に入社

26歳 東北への転勤を機に結婚

第一子誕生

27歳 前職を退職し、磐田市へ転入

28歳 磐田市役所へ入庁

第一子が誕生してすぐ、市役所の採用試験に応募し、見事合格。仕事に区切りを付け、その年の秋には前職を退職し、磐田へ移住しました。

松尾さんが転職や移住を短期間で行ったのには理由があります。

妻の菜水さんは東北の地で、初めての子育てを始めました。周りに知り合いもいない中、子育てのストレスと相まってアパートにこもりがち

な生活になっていったそうです。新天地に自身の地元ではなく、磐田を選んだのは、妻がのびのびと子育てができるから。家族の笑顔を見て「選択は間違っていないでした」と話してくれました。

「外に出る機会が増えました」

子どもが生まれた時「引越しや転校が続くと子どもがかわいそうだね」と夫と話すようになり、市役所に応募してもらいました。合格した時はとてもうれしかったです。

転勤先の東北では、近所に子育てをしている人も少なく、移動手段もなかったため、家にこもっていました。

磐田に来たら、両親も喜んでくれましたし、同年代の子を持つ友達と遊んだり、支援センターや公園で人と交流したりと外に出る機会が格段に増えました。

戻ってきて良かったと思っています。



妻：菜水^{なつみ}さん